

PONOS Deloitte.

KUO
GROUP

トヨタモビリティ中京

TEAM TOM'S

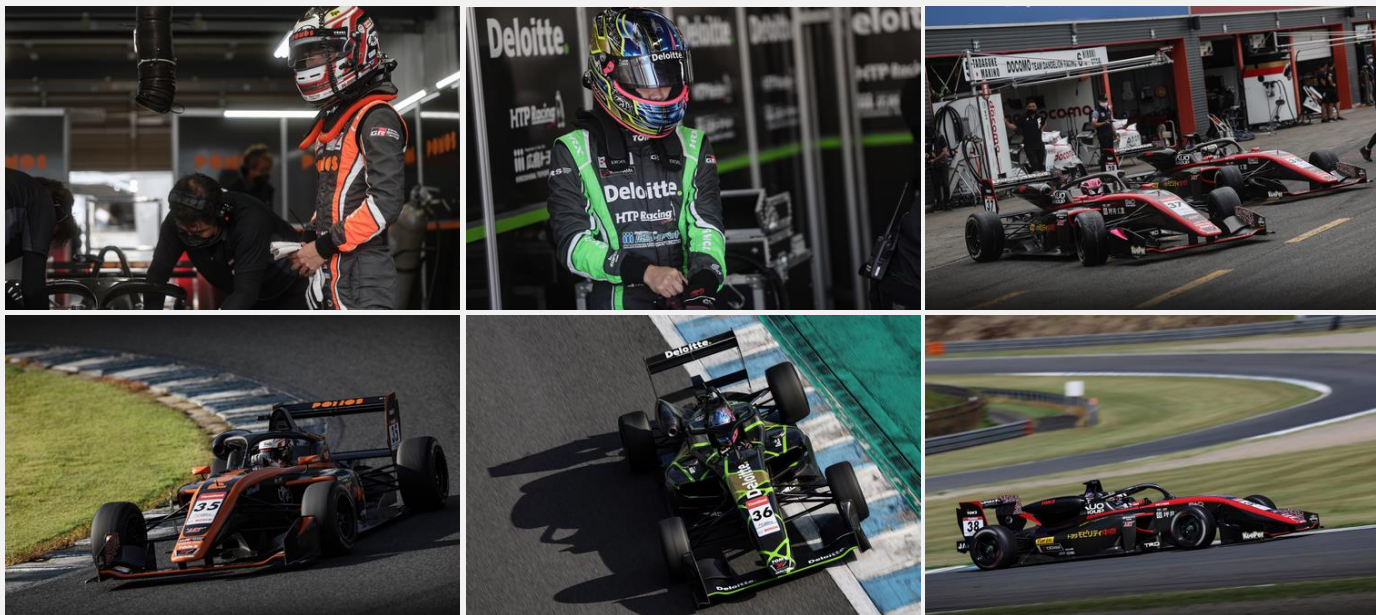


SUPER
FORMULA
LIGHTS
RACE REPORT

Rd.13,14,15 モビリティレポートもてぎ

天候：曇り・ドライ / 気温：29-29℃ / 路面温度：39-41℃

2022年シーズンのSUPER FORMULA LIGHTSも終盤戦に突入している。今回のもてぎでの3戦と岡山国際サーキットの3戦で終了となる。現在のドライバーランキングトップは37号車の小高一斗。38号車の平良 響が3位、35号車の野中誠太が4位。そして古谷悠河が6位につけている。木曜日の練習走行からライバルに上位を占められる厳しい状況だったが、予選を迎えて小高が第13戦のセカンドポジションをゲットし、決勝に向けて期待の持てる状況となってきた。そして、平良が第14戦のセカンドポジションを得て、こちらも自身2勝目に向けての可能性が出てきている。野中は、SUPER GTテストの際に、クラッシュして腰を痛め、痛みを抱えながらの走行となっているが、それでも両レースを5番手ポジションからスタートする。古谷は7番手、6番手からスタートを切り、上位フィニッシュを目指す。

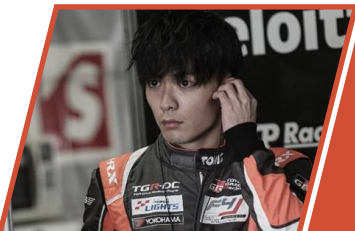


- コンディションは、例年よりも気温、路面温度ともに低い状況だった。
- 予選中に記録されたベストタイムによって第13戦、セカンドベストタイムによって第14戦のスターティンググリッドを決する。第15戦のグリッドは、第13戦の決勝結果によって決定される。
- 各マシンは、1セット目のタイヤで1分45秒台のタイムをマーク。路面のラバーグリップが増せば、当然タイムアップが期待できる。
- TEAMトムスの4台も順調にタイムアップし、上位争いに加わった。
- 小高がコースインして4周目に1分44秒451を記録。これでフロントローグリッドをゲット。翌周もアタックをしたが、45秒台に留まってしまった。
- 野中、平良、古谷も44秒台に突入したものの、ベストタイムは、5、6、7番手とグリッドを分けた。
- 4人の内、唯一2周連続して44秒台のタイムをマークした平良は、セカンドベストタイムが2番手となり、第14戦のフロントローを獲得してスタートすることとなった。



Driver	Car No.	Qualifying for 13	Qualifying for 14
野中 誠太	35	P5 1'44.881	P5 1'45.070
古谷 悠河	36	P7 1'44.986	P6 1'45.156
小高 一斗	37	P2 1'44.451	P7 1'45.160
平良 響	38	P6 1'44.930	P2 1'44.942

天候：曇り・ドライ / 気温：29-29℃ / 路面温度：39-41℃



野中 誠太

35 / ドライバー

もてぎに入る前には、腰、背中調子は良くなり、問題ないと思っていたのですが、練習走行でダウンヒルストレート先の90度コーナーのハードブレーキングで激痛が走り、今日痛みを感じながら、なんとか走っている状況です。1セット目のタイヤでは、あくまでマシンのバランスをチェックして2セット目に集中しました。セッティングは変えずにアタックをしたのですが、思ったほどタイムアップできず、ベストもセカンドベストも5番手。前日の練習走行で良いセットが見つかって、それを一歩前進させたのですが、うまくいきませんでしたね。スタートでなんとか順位アップして、体が痛くても最後まで走り切ることを目標にしています。



古谷 悠河

36 / ドライバー

予選日を迎えて、チームとも相談して、1セット目のタイヤではセッティングの変更の感触や、コースの状況を把握するために少し多めに走って、ラバーグリップが乗ってコースコンディションが良くなる2セット目にアタックをかけました。ポクのシミュレーションでも、コースインしてじっくりとタイヤを暖めてからアタックをかけた方が良いと思いました。練習では44秒5まで行っていたのですが、予選時は若干コースコンディションが変わった感じがあって、それに対応したセッティングをしてもらったのですが、44秒9までしか出せなかった。風の方向も変化していて、それも影響したかも知れません。スタートはかなりコツをつかめたので、しっかり決めて上位フィニッシュを目指します。



小高 一斗

37 / ドライバー

木曜、金曜の練習走行からライバルチームのような速さが出せなくて苦労していました。予選までにはなんとかマシンのセットアップも良くなったのですが、オーバーステアが出てしまって、連続してタイムを出すことができませんでした。セットアップによるものなのか、一発タイムを出すとりやがととても不安定になってしまって、それを修正するのに精一杯でした。第13戦は、スタートを決めてトップに立って優勝。第14戦はできるだけ多くのポイントを稼ぐ。そして第15戦は、13戦で勝って、ポールスタートを予定しているので(笑)、今回は2勝できるイメージをしています。



平良 響

38 / ドライバー

44秒台を連発できるほどに、マシンの調子はすごく良かったです。それなのにヘアピンコーナーでブレーキミス。ちょっと行きすぎてブレーキをロックアップさせてしまった。それがなければかなり良かったと思います。残念、というかそれがダメですね。ミスなく1周をまとめる。それが課題です。ミスした周より良いタイムが次の周に出せていますよね。前の周でミスをしなければ、ポールポジションも争えたのではないかと思います。風の方向が変わって、ヘアピンでは追い風だったのですが、それがブレーキングに影響したのかも知れません。でもそれをドライビングで補わないといけないですよね。集中していたのですが、ミスしてしまいました。



山田 淳

監督

ドライバーランキングトップの小高は、いつものように金曜日まではタイムが伸び悩み、土曜日の予選でシャキとするパターンで、第13戦のポールは獲得できませんでした。セカンドベストはミスしてしまったようで残念。第14戦は、平良が44秒台を連発できた結果、セカンドポジションをゲットできました。野中は背中、腰の痛みを抱えながらよく頑張りました。古谷ともども決勝で順位アップをして欲しいと考えています。この3連戦でTOM'Sチーム3勝の可能性もあると思うので、それを目標としています。

天候：雨・ウェット・曇り・ドライ・晴・ドライ / 気温：27-27℃・28-29℃・31-30℃ / 路面温度：29-29℃・35-38℃・41-40℃

予選時の曇り空から一転、午後からは雨が降り始め、第13戦はウェットコンディションとなった。セカンドポジションスタートの小高一斗は、完璧なスタートからトップに立つと、1周目から大きなリードでホームストレートに帰ってきた。誰も小高のペースには追いつけず、毎週ごとに2位とのギャップは広がり、終わってみれば約40秒の大差で7勝目。ポイントリーダーのパフォーマンスを遺憾なく発揮した。第14戦で今度は平良 響が2番手グリッドからトップに立ち、2位との差を開いて快走。野中誠太は、5番手から一気に2位へポジションアップ。TOM'Sが1-2でコントロールラインを切った。第15戦は第13戦を制した小高がポールからスタートしたが、1周目に2位へポジションを下げてそのままフィニッシュ。確実にポイントを加算してランキングトップを堅持した。これでチャンピオン獲得へ向けて一歩前進。古谷悠河は第15戦で今大会初の3位表彰台を獲得した。

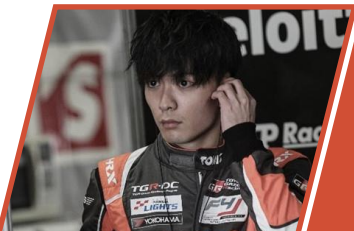


- ウェットレースとなった第13戦で、小高はスタートでトップに立ち、圧倒的ハイペースでトップを快走して今季7勝目を記録した。
- 小高のラップタイムは最大2秒以上離す周もあり、優勝にプラスしてファステストラップを記録した。
- 第14戦のセカンドグリッドからスタートを切った平良は、得意のスタートでトップに立った。5番手スタートの野中も抜群のスタートを決め、1コーナーの競り合いでもしっかりとラインをキープして2位にポジションアップ。TOM'S1-2体制でのフィニッシュとなった。
- 平良は第3戦に続いて自己2勝目をマークした。
- 第14戦で7番手からスタートを切った小高は、1周目に4位まで順位アップ。3番手争いを演じその差1秒以内で追い立てたが、パッシングには至らず、TOM'S表彰台独占は達成できなかった。4位小高、5位に古谷がフィニッシュした。
- 最終レース第15戦では、ポールポジションスタートの小高がスタートでトップに立つが、コース後半のS字コーナーで果敢に競り合いを挑んできた木村偉織選手と並走した。接触も起こりそうな状況の中で、小高は最悪の事態というリスクを回避して木村選手の先行を許して2位でフィニッシュ。古谷は4番手からポジションアップし3位でフィニッシュした。



Driver	Car No.	Rd.13 / Fastest Lap	Rd.14 / Fastest Lap	Rd.15 / Fastest Lap
野中 誠太	35	P9 2'05.574	P2 1'46.010	P8 1'46.965
古谷 悠河	36	P4 2'04.402	P5 1'46.384	P3 1'46.575
小高 一斗	37	P1 2'03.588	P4 1'46.188	P2 1'46.213
平良 響	38	P10 2'05.426	P1 1'45.913	P7 1'47.030

天候：雨・ウエット・曇り・ドライ・晴・ドライ / 気温：27-27℃・28-29℃・31-30℃ / 路面温度：29-29℃・35-38℃・41-40℃



野中 誠太

35 / ドライバー

体調は予選以降だんだんと快方に向かい、走行中に痛みを感じることも無くなりました。第14戦で2位に入れたのは、スタートで一つ前に出られて、前の2台が何やらガチャガチャしていたので、それを冷静に見つつ、2台が接触で脱落したので2位へという展開でした。その後は平良選手をひたすら追いかけることに集中したのですが、追いつくことができませんでした。ペース的には悪くはなかったと思いますが、勝てなくても色々なトライをしつつフィニッシュ。不完全燃焼の大会に終わりました。最終となる岡山大会では、体調を万全にして開幕戦以来の優勝を目指したいと思っています。



古谷 悠河

36 / ドライバー

ウエットの第13戦は、序盤は苦しかったのですが、タイヤが暖まってからはペースが上がりました。平良選手との接触は完全にボクが悪かったのですぐに謝りました。平良選手とチームの皆さんに大変申し訳なかったです。最後の第15戦では、スタートを決めることができ、3位に順位アップできて、ペースも良かったと思っているのですが、まだミスしないように注意しながら毎ラップ走っているので、表彰台は獲得できていても、前のマシンのペースには及ばない状況です。それをなんとか改善して、最後の岡山大会では予選から頑張っ、1勝できればと思っています。



小高 一斗

37 / ドライバー

第15戦は順位を落としてしまったのですが、やはりここ、もてぎはS字コーナーまで気を許してはいけなかつたわかっていっつも、木村選手が迫ってきて並ばれてしまいました。そのまま2台で並走すると接触の可能性が高く、ノーポイントで終わらなかつたので引きました。勝てなかつたのは悔しいですが、チャンピオン獲得が最大の目標なので冷静に考えました。第13戦のウエットは自信はありましたが、自分でもビックリするほど2位以下との差が開きましたね。マシンも決まっていた5周終わって10秒離れていたの、後ろでなにかアクシデントでも起きていたのかと思っていました。最後の岡山は気を抜かずパーフェクトでチャンピオンを決めたいです。



平良 響

38 / ドライバー

第14戦のスタートは、自信を持ってできました。1コーナーの飛び込みではポールポジションスタートのマシンと並んでいたのですが、ボクの方が少し前に出たのでトップに立つことができました。第13戦では最終ラップに古谷選手と接触してスピンしてしまいました。3位を走行していたので残念ですが、彼もレース後にすぐに謝ってくれたので、そこから気持ちを切り替えて14戦のスタートに集中できたのが良かったと思います。第15戦は得意のスタートで三つ順位を上げることができたのですが、その先は前を走る菅波冬悟選手のリヤが滑っていて苦しうなのがかかっていながら、近づくとダウンフォースが抜けて、パスするまでには至りませんでした。



山田 淳

監督

各レースでTOM'Sのドライバーが表彰台に立ち、優勝2、2位2、そして3位1という結果でした。優勝に関しては、小高も平良もスタートでトップに立ってそのまま優勝するという展開でした。小高のウエットレースでのハイペースは20周レースで後続を40秒も引き離すという素晴らしいものでした。平良は、「スタートでトップに立ちます」という有言実行。平良に続いて野中も2位と頑張りました。そして古谷も3位になり確実に成長をしています。第15戦では小高がトップから2位になっていますが、競り合う状況で接触を避けて、ポイント獲得をチョイスした結果でした。勝てなかつた悔しさは残りますが、チャンピオンを目指すためにはクレバーな判断でした。